

「Sports Policy for Japan 2012」 発表資料

子どもスポーツ復興計画 —女子に着目して—

立教大学松尾ゼミA

石垣 亮太

伊藤 友梨

高田 賢斗

目次

- 緒言
- 問題の所在
- 作業仮説
- アンケート調査結果
- 参与観察及びインタビュー調査結果
- スポーツポルテ支援策
- 参考文献

■ 緒言

運動・スポーツを **する子** **しない子** に分かれるといった

二極化が進んでいる

その傾向は**女子**においてより顕著に表れる。
女子のスポーツ離れに着目しながら
男女共のスポーツ離れを食い止め、進行している
二極化を解決したい。

子どもスポーツ復興計画

—目標—

短期目標



子どもにスポーツとの接点をつくり、
スポーツのもつ楽しさを伝える

長期目標



子どもが成長し大人になるとき、
スポーツに親しむ人が増えること

現状 —スポーツ離れ—

各年代のスポーツ非実施率

未就学児	8.9%
小学校期	3.4%
中学校期	9.1%
高校期	21.5%
大学期	22.4%
勤労者	26.7%



大人へと成長するにつれて
スポーツ離れが進む

笹川スポーツ財団(2010)『子どものスポーツライフ・データ2010』

笹川スポーツ財団(2010)『青少年のスポーツライフ・データ2010』

■ 問題の所在

—進む女子のスポーツ離れ—

高頻度群 (週7回以上運動をしている)

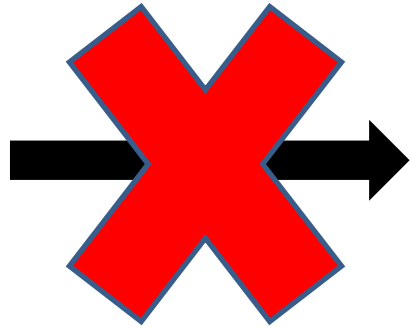
7歳時 男 32.0% 女 33.0% **差がない**

8歳時 男 34.0% 女 28.0% **差がつき始める**

13歳時 男 59.0% 女 39.2% **約20%も差に**

笹川スポーツ財団(2010)『子どものスポーツライフ・データ2010』

笹川スポーツ財団(2010)『青少年のスポーツライフ・データ2010』



■ 作業仮説

なぜ

女子のスポーツ離れが

進むのだろうか



スポーツに対する性別イメージの定着





『やわらかいスポーツ』との出会い

運動遊び

本人の意思によってやり方、使う用具、ルールを自由に決めることができる

スポーツ

定められたルールのもとで行う組織だったゲーム

「やわらかいスポーツ」

- ①誰でも簡単に行うことができる。
- ②基本的なルールは存在するが、場所・人数・技術レベルによって柔軟に行うことができる。
- ③全体に適用するルールだけでなく、障がいをもつ子ども独自のルールなど、その子どもの特徴に合わせて個人適用ルールを認める。
- ④使用する用具は、安全で使いやすいもの。
- ⑤スポーツが有する性別イメージが強くないスポーツを中心に考える。

■ アンケート調査結果

—スポーツに対する意識調査—

【対象】大学生217名

(男性82名,女性135名)

【時期】2012年7月19日

【方法】質問紙法を用いたアンケート調査

(集合法によって配布、回収を行った。)

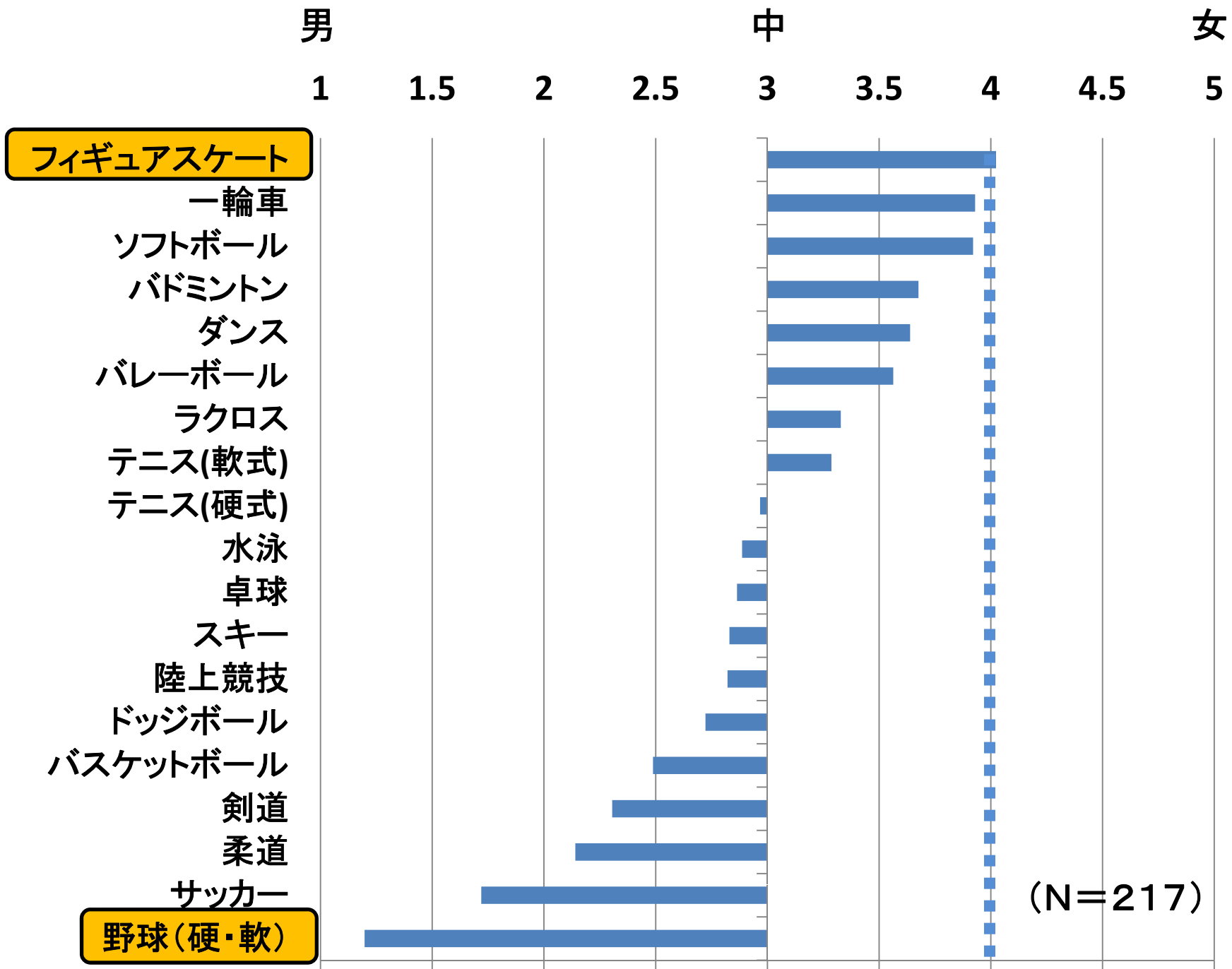
【性別】男性38%,女性62%

【所属】体育会16%,スポーツサークル34%,
所属していない48%,無記入2%

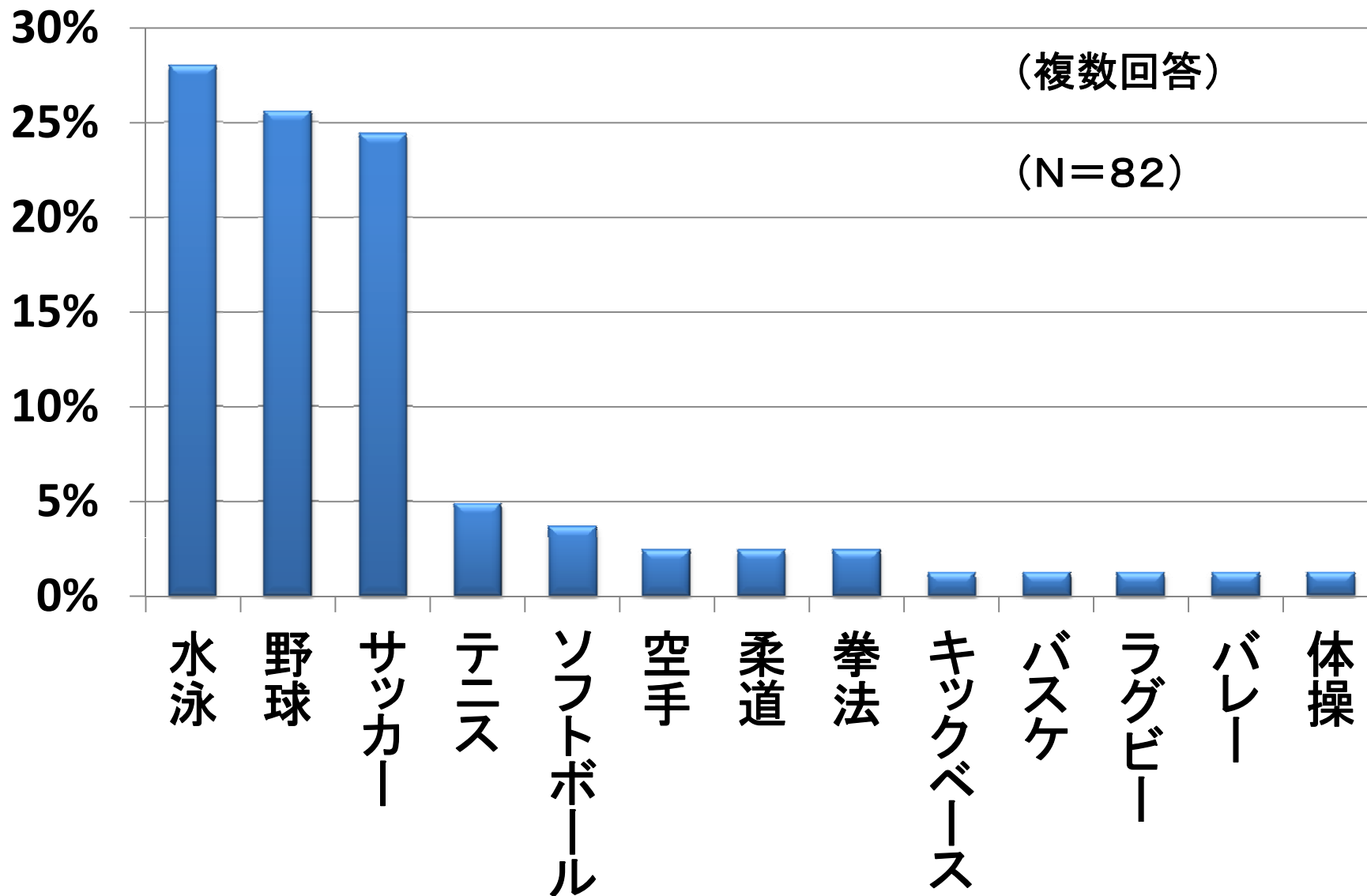


Q10.あなたは以下のスポーツについて男の子のスポーツと女の子のスポーツのどちらのイメージをお持ちですか。(それぞれ1つに○印) 4

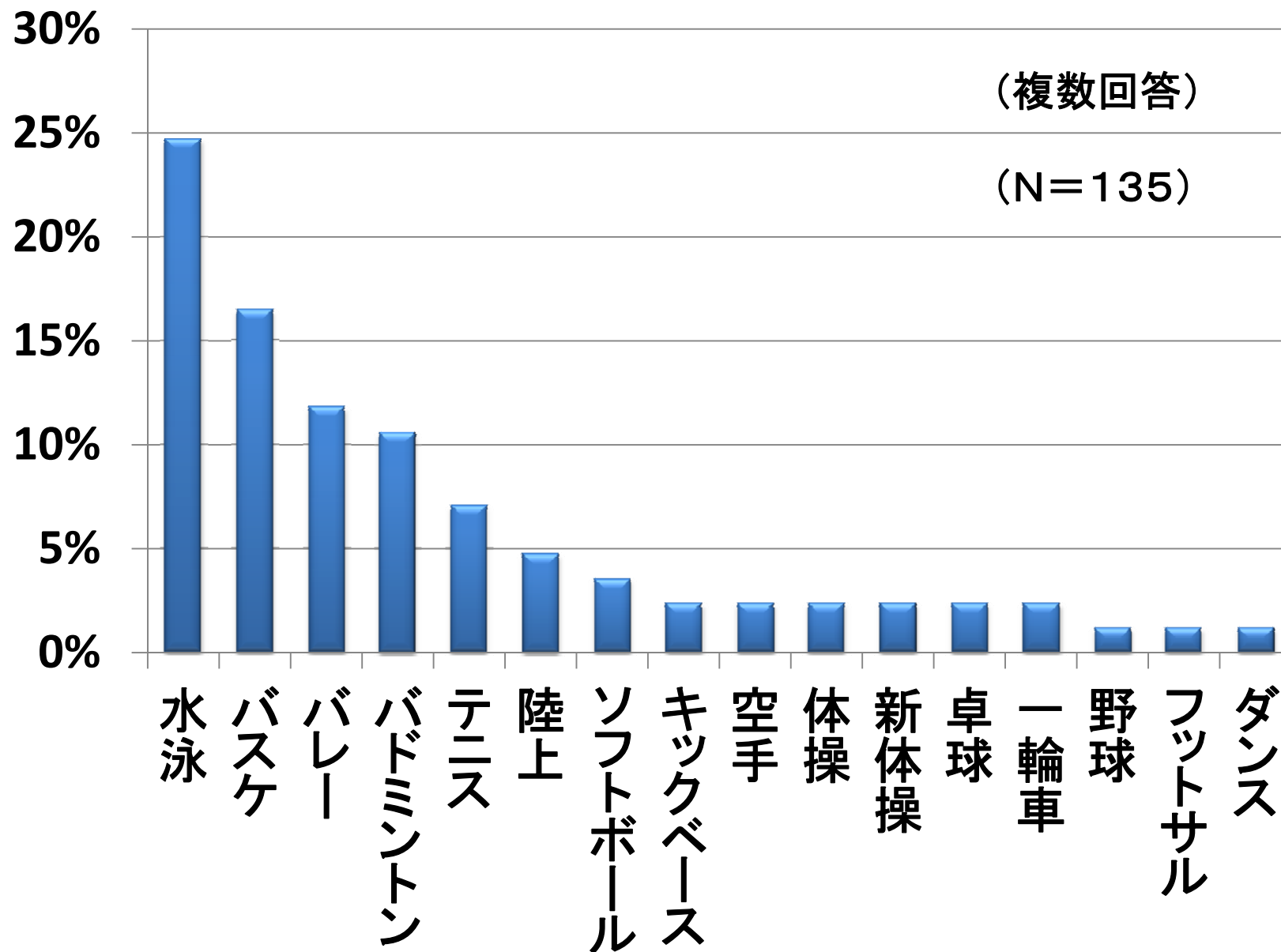
	男の子の スポーツ		どちらでも ない		女の子の4 スポーツ4					
1.サッカー	1	2	3	4	54
2.柔道	1	2	3	4	54
3.ソフトボール	1	2	3	4	54
4.テニス(硬式)	1	2	3	4	54
5.テニス(軟式)	1	2	3	4	54
6.バドミントン	1	2	3	4	54
7.バレーボール	1	2	3	4	54
8.フィギュアスケート	1	2	3	4	54
9.野球(硬・軟含む)	1	2	3	4	54
10.ラクロス	1	2	3	4	54
11.剣道	1	2	3	4	54
12.ドッジボール	1	2	3	4	54
13.ダンス	1	2	3	4	54
14.卓球	1	2	3	4	54
15.バスケットボール	1	2	3	4	5 4
16.一輪車	1	2	3	4	54
17.水泳	1	2	3	4	5 4
18.陸上競技	1	2	3	4	54
19.スキー	1	2	3	4	54



小学生の時にに行っていたスポーツ(男性)



小学生の時に行っていったスポーツ(女性)



Q11.もしあなたに子どもがいたとします、以下のスポーツの中でやらせたいスポーツの番号を3つ選んで男の子、女の子それぞれやらせたい順に、下線部にその番号を記入してください。+

- 1.サッカー 2.柔道 3.ソフトボール 4.テニス(硬式) 5.テニス(軟式) +
6.バドミントン 7.バレーボール 8.フィギュアスケート 9.野球(硬・軟含む) +
10.ラクロス 11.剣道 12.ドッジボール 13.ダンス 14.卓球 15.バスケットボール
16.一輪車 17.水泳 18.陸上競技 19.スキー 20.その他() +

+

第1位 第2位 第3位 第1位 第2位 第3位+

+

男の子 _____ 女の子 _____ +

+

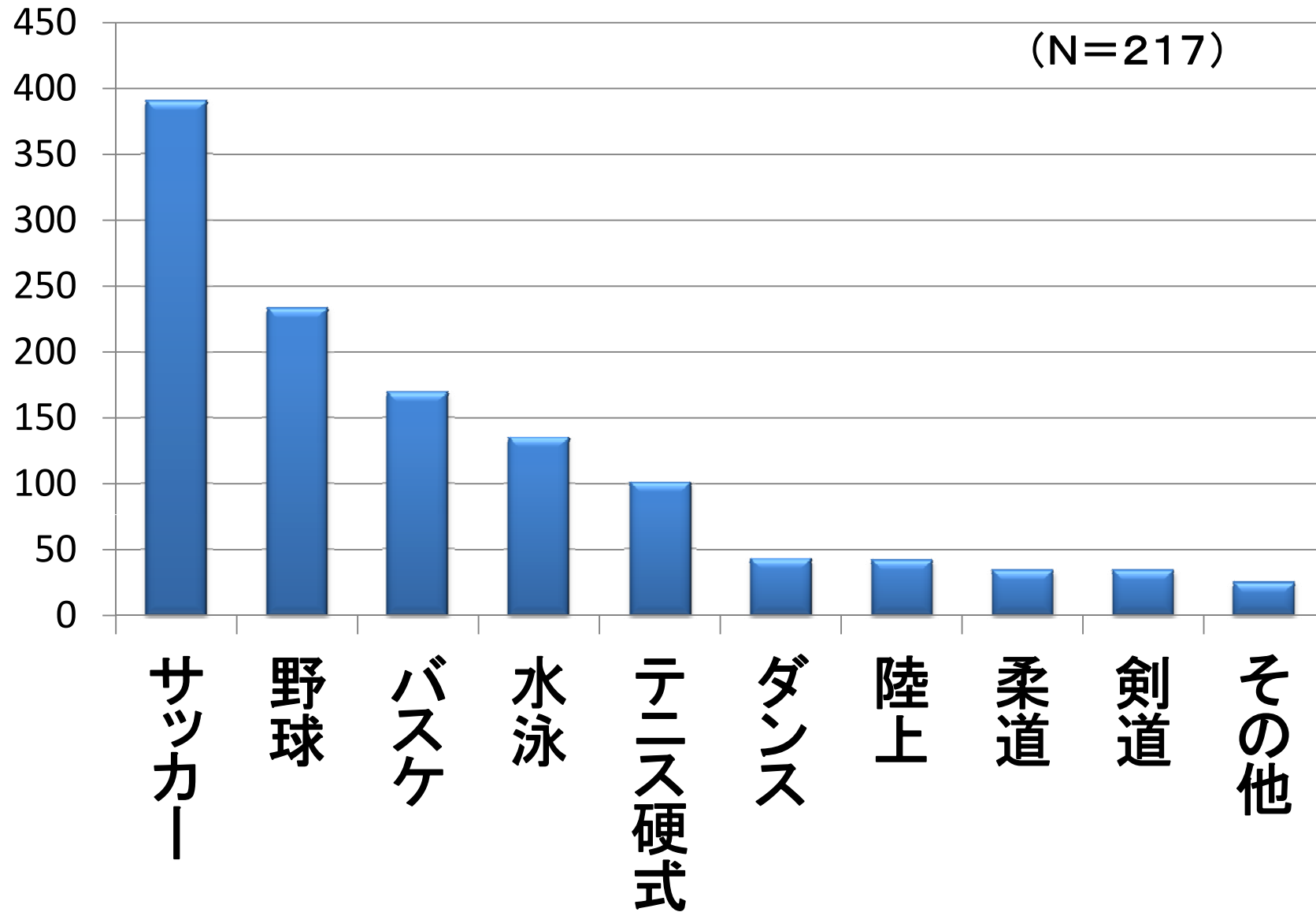
+

+

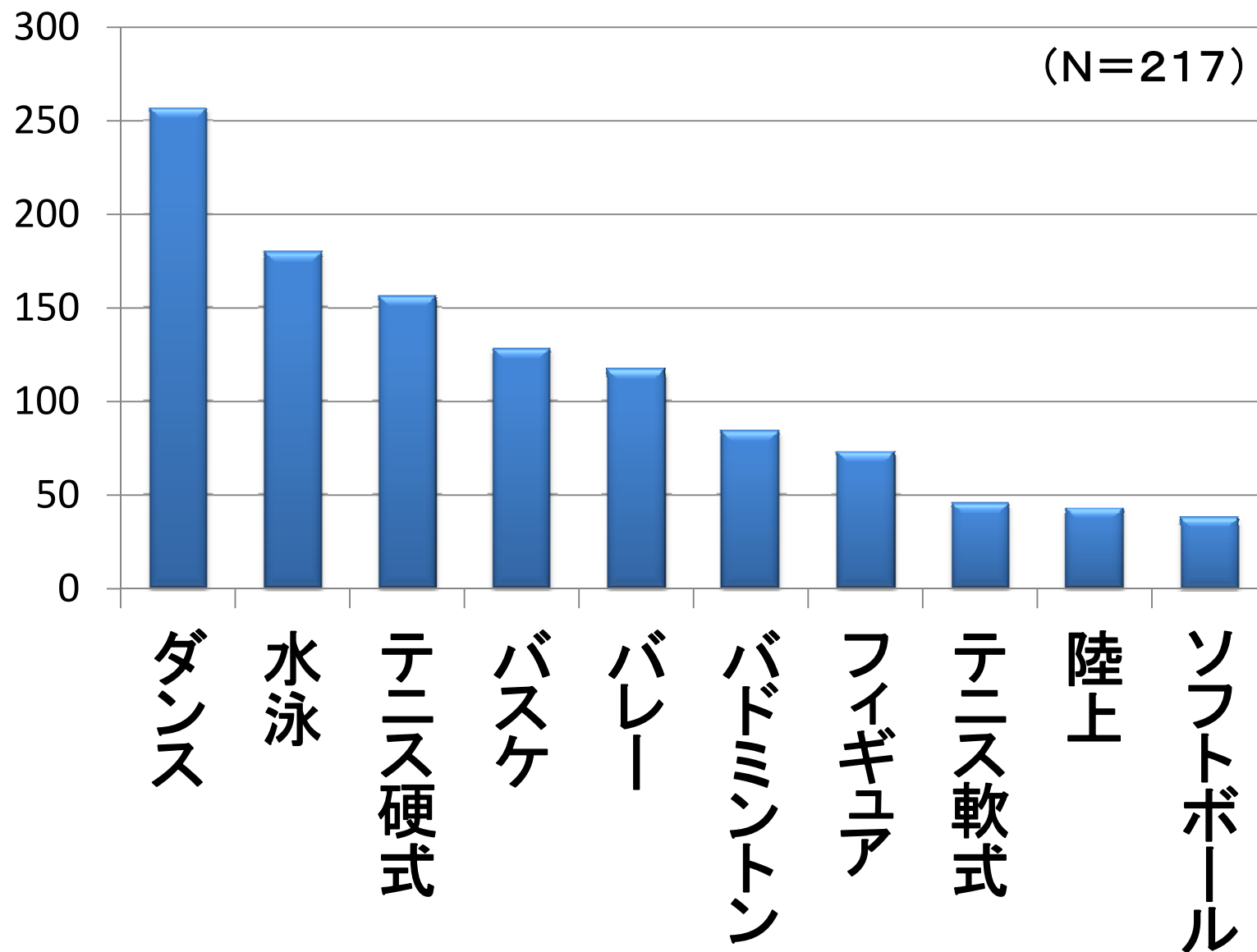
◎記入例	第1位	第2位	第3位+
男の子	<u> 2 </u>	<u> 7 </u>	<u> 18 </u> +

(注)集計は1位を3点、2位を2点、3位を1点として行った

男の子が生まれたらさせたいスポーツTOP10



女の子が生まれたらさせたいスポーツTOP10



■ 参与観察及びインタビュー調査結果

【対象】千葉県浦安市立入船北保育園

【日時】2012年8月31日9:30~17:00

【方法】参与観察及び

保育士A氏へのインタビュー調査

インタビュー調査結果

保育士の意識の中にスポーツという存在は薄い。体操の時間を通して、楽しく体を動かし発育を目指し保育している。スポーツに繋がることを考えての運動は行っていなかった。

参与観察結果

園児の性差に対するこだわりを感じた。男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくあうことが当たり前であり、そうでない子に対しては違和感を持っている様子であった。

■ スポーツポルテ支援策

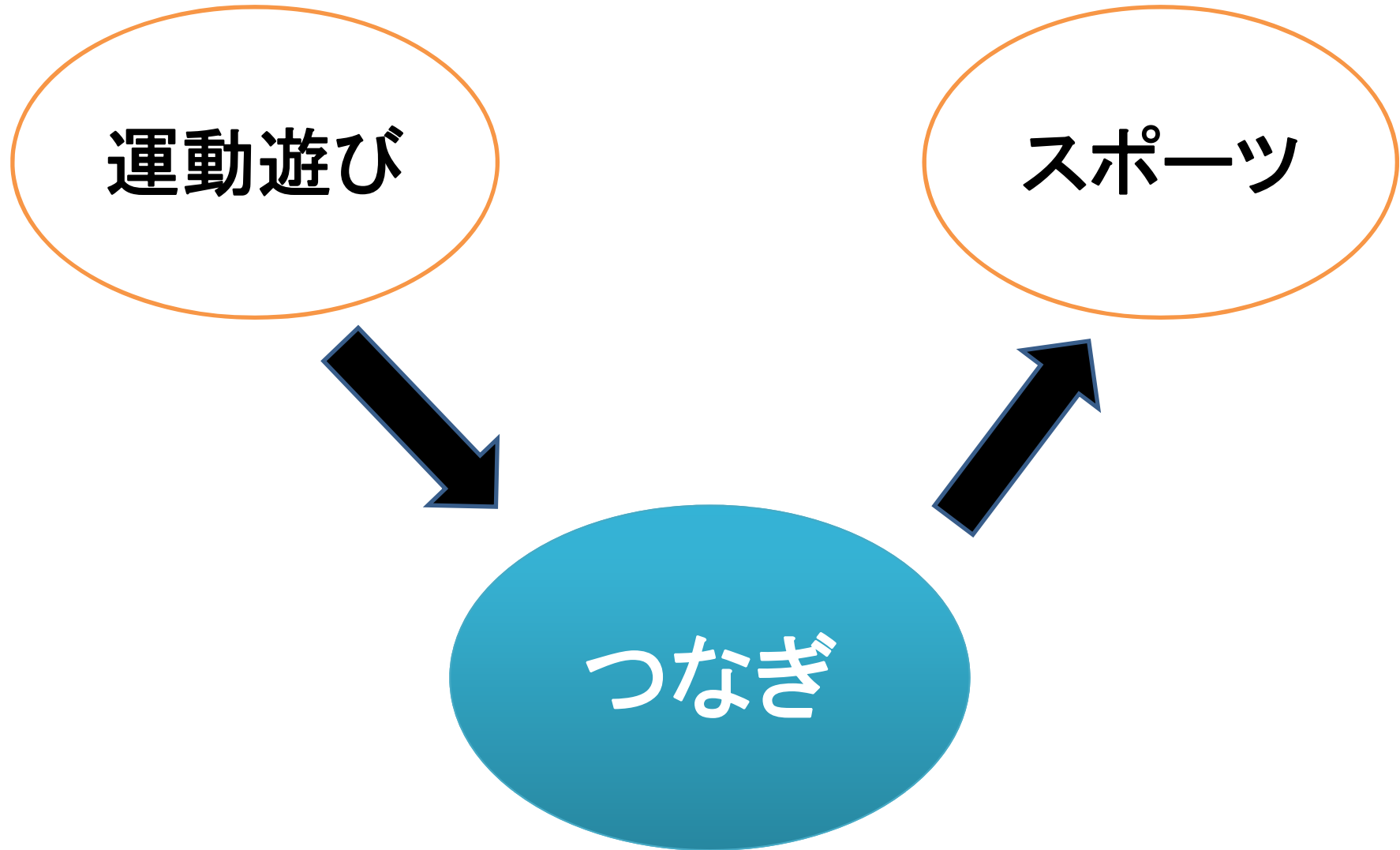
スポーツポルテ とは

学生ボランティアが中心となり行う、運動遊びからスポーツへの移行をスムーズにすることを目的とした支援プログラム。
「ポルテ」とは、フランス語で「扉」の意。

支援策を行うポイント

1. 「運動遊び」と「スポーツ」をつなぐ
2. 「やわらかいスポーツ」の提案
3. 「保育所」をターゲットとする

1. 「運動遊び」と「スポーツ」をつなぐ



2. 「やわらかいスポーツ」の提案

小学校に上がり、スポーツと出会う前に、
スポーツに移行できる準備を

「やわらかいスポーツ」を行うことによって
整える。

3. 保育所をターゲットする

幼稚園

- カリキュラムが決められている
- 園児の滞在時間
4時間

保育所

- カリキュラムが決められていない
- 園児の滞在時間
8時間 + **延長保育**

保育所の方がカリキュラムに対して時間的余裕があることから運動・スポーツを導入しやすい

「スポーツポルテ」支援策の 具体的展開

1. 具体的内容
2. プログラム概要
3. スポーツポルテ支援団体の創設
4. 期待される効果

1. 具体的な内容

「やわらかいスポーツ」を中心に
大学生が各対象年齢、保育所施設の環境に
応じて種目を選択する。

- 風船バレーボール
- ダンスゲーム
- ゲームドッチ

2. プログラム概要

- 場所

保育所施設（ホール、園庭など）

- 頻度及び時間

日常プログラム



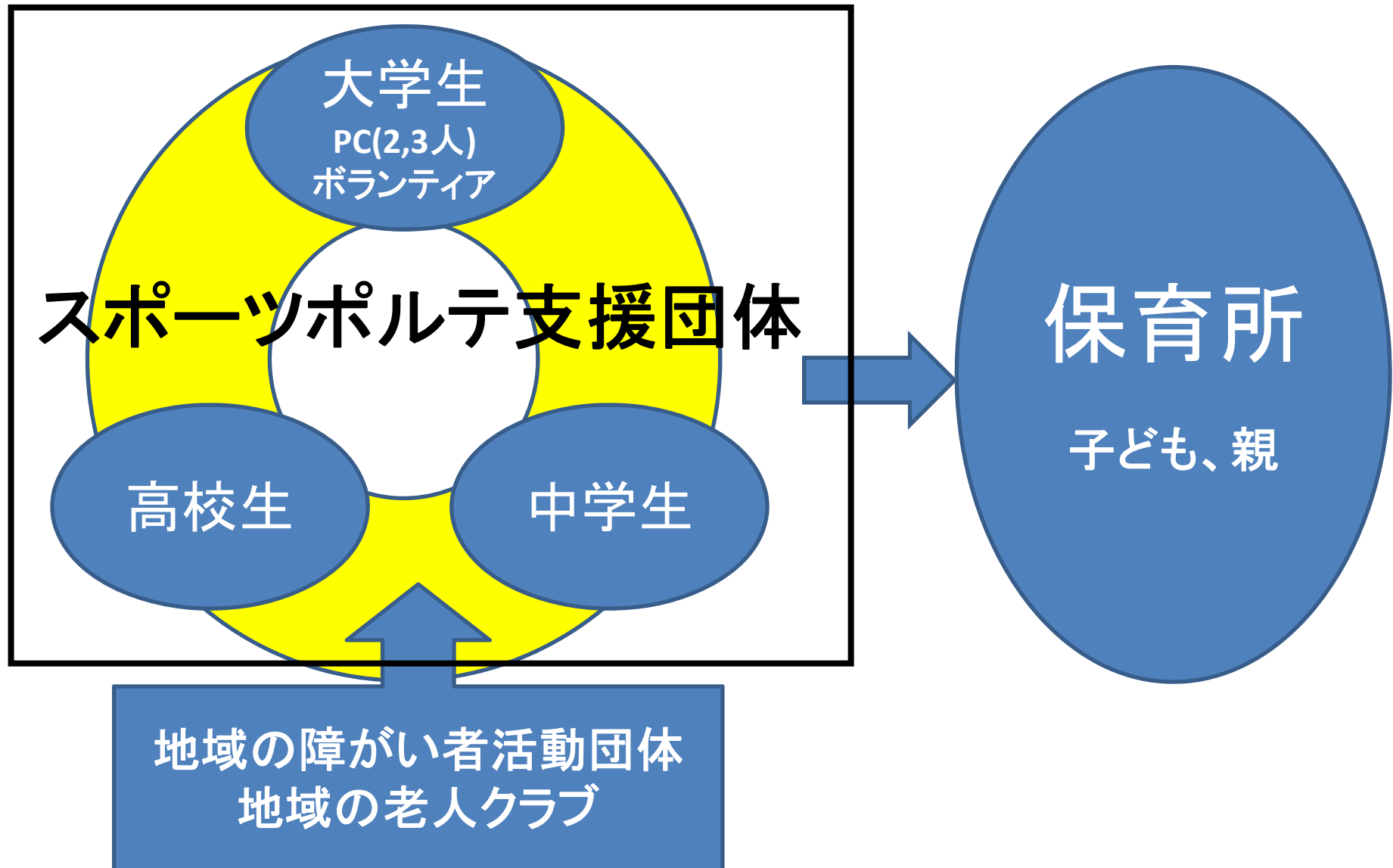
2週間に一度
約2時間

特別プログラム



2ヶ月に一度
約2時間

3. スポーツポルテ支援団体の創設



4. 期待される効果

園児とスポーツとの出会いの場を創出
→ 日常にスポーツと接する
機会の増加



スポーツの性別イメージをこえた
「やわらかいスポーツ」の
発展に寄与する

女子のスポーツ環境への
アクセシビリティを高める
ことができる

参考文献

- 中央教育審議会(2002)『子どもの体力向上のための総合的な方策について(答申)』
- 厚生労働省(2008)『保育所保育指針』
- 厚生労働省(2012)『児童福祉施設最低基準第34条』
- 笹川スポーツ財団(2010)『子どものスポーツライフ・データ2010』
- 笹川スポーツ財団(2010)『青少年のスポーツライフ・データ2010』
- 文部科学省(2008)『幼稚園教育要領』

ご清聴ありがとうございました。